



同志社

同志社
東京校友会

DOSHISHA
TOKYO JOURNAL
2015.JAN NO.98

東京
ジャーナル

NO.98

【今号の記事】

- ・新年ご挨拶
- ・支部会活動報告
- ・校友会大懇親会報告
- ・ホームカミングデー
- ・特別協力会員の集い
- ・校友訪問(ADK植野伸一氏)
- ・連載/片桐家同志社五代記(十二)
- ・連載コラム/今出川四季
- ・新島研究会
- ・年次会活動報告
- ・同志社スポーツ
- ・副学長渡辺好章氏インタビュー
- ・2015年春の集い告知
- ・行事告知

写真：同志社礼拝堂（チャペル） 同志社大学提供

2015 新春に 新たな光を求めて

新年ご挨拶 会長児玉正之

校友の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年は、イスラム国をはじめ世界で紛争が勃発、国内は2月に関東地区が大雪に見舞われ甚大な被害が発生、四月には消費税増税、その年を表す漢字はやはり「税」でした。

また災害も多く、とりわけ御嶽山の噴火事故は衝撃を受けました。

師走の選挙は最低の投票率。「一国の良心」はどこに行ってしまったのでしょうか。

新島襄「脱国百五十周年」「帰国百四十周年」の式典、初の校友会大懇親会、同志社大学

「東京オフィス」が京橋に移転しロケーション・設備とも素晴らしいオフィスが披露目される等、節目のイベントが多く開催された一年でもありました。

今年は「同志社創立百四十周年」です。校友が改めて新島襄の「建学の精神」にそれぞれの思いを馳せることを通じて、校友会活動の「輪」や「絆」を強く出来れば幸いです。

東京校友会は同志社大学や校友会本部や関東の各支部と連携を強化し、関東地区での同志社大学の「プレゼンス」を高める事も重要事項です。

今年も、一つでもあたらしい「群れる機会」を提供出来るようチャレンジいたします。

校友の皆さん、積極的な参加をお待ちしております。

2015年のご活躍とご健勝を祈念申し上げます。



会長 児玉正之

今年も、一つでもあたらしい「群れる機会」を提供出来るようチャレンジいたします。



写真：2014年11月26日に行われた新島襄横浜港帰国140周年記念行事

同志社パワーの結集へ 『2015年春の集い』

実行委員長 横山 徹

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましてはご家族とともに輝かしい新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は全国各地で様々な災害が多く発生して、大変な一年でした。被災地・被災者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

今年も、一つでもあたらしい「群れる機会」を提供出来るようチャレンジいたします。

今年も、一つでもあたらしい「群れる機会」を提供出来るようチャレンジいたします。

今年も、一つでもあたらしい「群れる機会」を提供出来るようチャレンジいたします。

今年も、一つでもあたらしい「群れる機会」を提供出来るようチャレンジいたします。

今年も、一つでもあたらしい「群れる機会」を提供出来るようチャレンジいたします。

今年も、一つでもあたらしい「群れる機会」を提供出来るようチャレンジいたします。

ゲストも同志社から大きく飛翔され活躍の方をお招きします。

毎年ご参加の方はもちろん、初めて参加される方も一緒に、それぞれの人生の礎になった4年間を語り合いませんか。そして、集い

来る友と『同志社』に思いを馳せる日にしませんか。それぞれの年次会・ゼミ・サークル活動など、ご友人とお誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

実行委員一同、心よりお待ちしております。

実行委員一同、心よりお待ちしております。

実行委員一同、心よりお待ちしております。

実行委員一同、心よりお待ちしております。

実行委員一同、心よりお待ちしております。

実行委員一同、心よりお待ちしております。



横山実行行委員長

樹徳会東京支部

商学部樹徳会東京支部総会
懇親会が平成26年10月18日
(土)秋晴れの下ホテルグラン
ドパレスにて開催されまし
た。今年は、昨年より17名多い
122名が参集しました。

樹徳会は商学部卒業生の校
友会で大正時代からの歴史が
あり、東京支部は暫くの休会
の後再開、今年で「再生」樹
徳会3回目を迎えました。

総会は日下部篤子幹事司
会、白石正東京支部長の開催
挨拶、植田宏文商学部長の祝
辞、洪水啓次副支部長の新旧
役員、幹事の選任動議提出・
承認の後、第二部講演会では
加藤千洋大学院教授「習近
平オンラインワン体制の中国
と日本」の演題で、講演をい
ただきました。

第三部懇親会は大谷實総長
挨拶、坂光司樹徳会理事長挨
拶に続き、岩倉の土地が、旧制
同志社高等商業学校教員・生
徒による募金運動で取得され
た事を報告。北濃登美男東京



ホテルグランドパレスの東京支部総会懇親会

第13回同経会「東京のつどい」開催

11月26日(水) 18時30分より、
日本プレスセンターで、第13
回同経会「東京のつどい」を
開催しました。

第一部の講演会では、最初
に小嶋淳司同経会会長(昭37
卒)の開会挨拶、続いて竹廣
良司経済学部長(平1卒)の
来賓挨拶があり、その後、同
志社大学経済学部河島伸子教
授に「日本の企業メセナ(芸
術文化支援)——企業は文化の
未来を担えるか——」と題し、
講演していただきました。

メセナという言葉は1990
年に「企業メセナ協議会」が
発足し、それ以来使われてい
る言葉で、芸術文化支援を意
味するフランス語です。一般
的なメセナを巡る理解は、大
企業中心、目的は企業のイ
メージアップか、もしくは純
粋な社会貢献、不況時にメ
セナは衰退する、欧米のメセ
ナの方が進んでいる、など
です。しかし、企業メセナは、
大企業に限らず中小企業も盛

んで、不況期でもあまり変動
していません。また、我が国
は、企業独自の理念、ポリシー
を持っているケースが多いよ
うです。このため、文化行政
の先導役、新たな文化創造の
担い手として期待されていま
す。そして、社内活性化、地
域連携も深まっていますし、
メセナは経済成長にも貢献し
ています。参加者は学生時代
に学ばなかった文化経済学と
いう新鮮な話に大いに興味を
そそられたようです。

第二部は懇親会で、児玉正
之東京校友会会長(昭45卒)
の乾杯音頭の後、楽しく歓談
し、21時前、カレッジソング、
同志社チャアードお開きとなり
ました。

文責／高橋健治(昭44年・経)



講演中の河島伸子教授

IC・電子部品の調達から技術まで一括サポート致します！

明光電子一社で全ての部品がそろい、
技術サポート、製造、検査までのプロセスを
「早く」「広く」「深く」をキーワードに実践できる、
電子の統合サービスが明光電子の強みです。

早いレスポンス — 「情報」と「モノ」を素早く正確に提供
広いネットワーク — 業界に広く通じているから何でも揃う
深いサポート — 確かな信頼があるからこそできる協力体制



明光電子 株式会社

神奈川県横浜市港北区新横浜 3-18-9 新横浜ICビル
FAX: 045-471-2377

E-mail: info@meicodenshi.com

☎045-471-2223

明光電子 |

検索

代表取締役 十川 正明

(昭和48年 機械工学科卒業 合気道部)

発展する各県支部から最新情報が続々



■千葉県支部 総会・懇親会報告

校友会千葉県支部の総会・懇親会が10月4日開催され、総会では全議案が承認、続いて芸術作品展を鑑賞し、村田学長の講演を拝聴しました。後半の懇親会は和気あいのうちに閉会しました。

芸術作品展に参加者をご案内しました。4時に大学校友課の田中課長から近況案内があり、続いて村田学長の特別講演です。学長のお話は、同志社は質を重視した教育に力を入れたいとのことでした。

校友会千葉県支部の26年度定時総会は10月4日、ホテル・プラザ菜の花にて開催されました。午後2時に大下牧師による祈りの後、総会が始まりました。議長は神内支部長が、議長の指名で佐々木理事が司会を務めました。支部長の挨拶のあと、議事に移り、今年度の事業報告、会計報告、来年度の事業計画・収支予算案について支部長・会計担当理事から報告・提案がありました。若手会員獲得のための具体策について質疑応答があり、全ての議案が承認されました。

講演会の後は、懇親会。司会には桑田副支部長に代わり、木村校友会副会長のご挨拶、兄玉東京校友会会長の乾杯のご発声で開宴しました。和やかなムードの中、旧交を温め合い、いつもながらもう少し時間があればと思いつつ、最後にカレッジソングを斉唱して閉会しました。

文責／神内一憲（昭47年・商）



和気あいの総会会場

■神奈川県支部「同志社神奈川の集い2014」開催

10月24日横浜駅近くの崎陽軒本店において「同志社神奈川の集い2014」が開催され、約130名の校友が出席した。今回は支部長が交代し、大坂支部長が退任、竹村慶三（昭45商）が就任した。

13時30分にスタートした総会では大坂神奈川支部長の挨拶を皮切りに事業報告が行われ、来賓を代表して大谷實同志社総長・中村友一校友会副会長が祝辞を述べられた。

続いて女性として全国初の公立中学校女性民間人校長に選ばれた平川理恵先生（平3文卒）による「教育理念は自立貢献―学習する学校をめざして―」と題しての講演があった。先生の掲げる「自立貢献」については一人ひとりがまず自立する。社会から、人から何かをしてもらうのを待つのではなく、自分が周りの人に、あるいは社会に何を貢献できるかを常に考えて行動

することが求められると熱い想いを語っておられた。講演終了後も多くの質問があり非常に盛況であった。次に会場を移して懇親会がスタートした。校友の葛西みな子氏のソプラノ独唱、井上幸男校友会常任理事の祝辞、荒井仁牧師の祈祷と続き、山下正人横浜市議会議員発声による乾杯で参加者は食事と飲み物を手に、各テーブルを囲み和やかな歓談へと移った。最後に葛西さんと全員で「赤とんぼ」の合唱、恒例のカレッジソング斉唱で楽しいひとときの幕を閉じた。

文責／西田外志男（昭50年・工院）



初の公立中学校女性民間人校長：平川理恵先生

■埼玉県支部 総会報告

埼玉県支部総会は、11月15日、ラフレさいたまにて水谷誠理事長、木村昌平副会長をはじめ近隣支部、同窓会の来賓の方々を迎え、約40名出席のもと開催された。

総会は、日向野支部長の挨拶で始まり、水谷誠理事長の来賓挨拶、木村昌平校友会副会長の来賓祝辞、議事報告等終了後、保阪正康特別顧問の閉会の辞を経て講演会へ移った。

講演会では、「魂に汗をかけ」と題して、木村昌平副会長に、セコム入社後のいきさつから、現在にいたるまでの貴重なお話をうかがうことができた。

この講演会については、総会出席者のみならず、地域住民の方々にも事前にご案内して、聴講していただいた。

講演会終了後、恒例の参加者全員の写真撮影を経て、懇

親会へと進んだ。

懇親会は、金屋憲二郎東京校友会副会長の乾杯で始まり、初参加会員の自己紹介、抽選会などを行い、終始和やかでアットホームな交流を深めることができた。

最後は、カレッジソング斉唱で締め、お開きとなった。

来年は10月17日(土)を予定している。

文責／榎本誠一(昭50年・法)



ラフレさいたまでの記念撮影

■茨城県支部 総会報告

11月23日(日)「ホテルテラスザガーデン水戸」で同志社校友会茨城県支部発足後2回目となる2014年度総会・懇親会が開催されました。

総会には、同志社大谷實総長、校友会木村昌平副会長など来賓、校友を合わせ34名が出席しました。

冒頭渡辺支部長、大谷総長の挨拶、次いで挨拶に立った木村副会長は、今年2月に初めて全国の校友が一堂に会して京都国際会館で「大懇親会」を開催した経緯、校友大集結の想いと方策、今後はホームカミングデーに連動して開催することにしたことなどを話されました。

次に、中段事務局長の会計報告、役員改選では全員留任の上1名増員を決定しました。

第二部は「私と同志社」と題して大谷総長の特別講演。



ホテルテラスザガーデン水戸での記念撮影

大谷総長は茨城県の現在の筑西市のご出身で、高校生の折りは家庭事情もあって一時は大学進学を諦めたが、高校に同志社の応募(合格すれば学費免除)があり、担任の先生が創立者新島襄のことを良く知っておられ同志社進学を勧めてくださったこと、大学では当時手薄な法学部の教授陣の中で憲法、刑法を学び、教授となって以降、病氣との闘い、若くして学長を努めたこと、京田辺キャンパスの移転に伴う学生への対応など様々な経験を話され、出席者一同耳を傾けました。

第三部は懇親会で、校友、近隣4県支部長のスピーチがあり、最後に全員でカレッジソングを歌い、同志社チアリーで閉会しました。

文責／横山豪(昭40年・経)

■山梨県支部 総会・懇親会報告

12月6日(土)、第2回同志社校友会山梨県支部総会・懇親会が甲府市内のホテル談露館において開催されました。

大谷総長、木村校友会副会長、田中校友・父母課長、土佐総長秘書、西村東京校友会副会長、竹村校友会神奈川県支部長をご来賓として迎え、総勢36名(含女子大)で行われた。総会は田中副支部長の開会の辞で始まり、櫻井支部長の挨拶、来賓紹介に続き、大谷総長から「同志社大学の近況について」と題して講話をいただいた。14学部、2万8千人の学生を受け入れるハード面は確立したが、今後良心教育のソフト面へと変化させていく必要性と一層の国際化(Global化)推進に力をいれていくとのこと。

引き続き、隅谷副支部長を議長に選出し、26年度報告、27年度議事が承認された。

総会終了後、保坂理事、小林(由)両名の司会で懇親会をおこなった。全員で賛美歌を唱和し、一部ミニコンサートは



山梨県支部総会36名で記念写真

木村校友会副会長の乾杯の首領、新入会員の自己紹介のあと、花野理事の進行で同志社にちなんだクイズ形式のゲームで盛り上がり、田中校友・父母課長に締の言葉をいただいた。最後に記念撮影をおこない本会の今後の発展と会員相互の交流を誓い合い、散会となった。

文責：隅谷真二(昭46年・工)



第2回同志社校友会大懇親会は今回も大盛況。 集まろう！同志社卒業生たちよ！

第2回同志社校友会大懇親会が開催されました。

谷総長のご祝辞のあと、第一部講演会が開催された。

時間を含め、大盛況であった。

同志社校友会主催の「第2回同志社校友会大懇親会」が去る11月8日(土)に国立京都国際会館とグランドプリンスホテル京都で開催された。昨年2月の第1回と同様あいにくの雨模様だったが全国の各支部から1200名の校友が集まり盛大に開催された。中には福井支部のようにバスをチャーターして参加した支部もあり、今回は全国もれなく各支部から参加者を集めた。東京校友会も「大懇親会」について東京ジャーナル、ホームページでの告知を行い、またチケットの斡旋を行った。(東京校友会のチケットの斡旋は57枚だった)

第一部は国立京都国際会館アネックスホールで同志社出身毎日放送アナウンサー西村麻子さんの司会で、井上礼之同志社校友会会長の開会宣言、大

講演会は作家百田尚樹氏の講演が行なわれた。ベストセラーとなった著書「永遠のゼロ」海賊とよばれた男」の執筆の背景の話を中心とした講演だった。太平洋戦争で戦い戦死した300万人の中心は、18歳から20代前半の大正生まれの人々だった。また戦後、完全に廃墟と化した日本を復興させた中心もまた大正世代の人々だった。この世代の人々の犠牲と努力の上に今日我々がいる。

第二部はグランドパレスホテル京都に移動し交流会が開催された。水谷理事長の祈祷のあと、村田学長のご祝辞、加賀女子大学学長の乾杯のご発声で始まった。乾杯は清酒「同志社大吟醸」。ホテルビュッフェスタイルの料理に加え、会場に校友会会員による京都の老舗三嶋亭のローストビーフ、竹茂楼の鰻寿司、田中長の奈良漬、本田味噌の味噌汁、俵屋吉富の生菓子の屋台が並び、豪華な料理と、同志社大学フラサークルによるフラダンスを楽しまながらの賑やかで和やかな交流会であった。

しかし年々、戦争、敗戦、そして焼け野原になった戦後が遠くなり死にもの狂いの復興の努力も忘れられてゆく。「忘れてはいけない、こうしたことを次世代に伝えたい、という思いから執筆した」とのこと日本人の魂の復活を訴える氏の熱い思いが伝わる素晴らしい講演であった。時にユーモアを交え、笑いを誘いながらも聴衆に深い感銘を与えた。講演後の質問

最後に同志社大学応援団の演舞、豊原校友会副会長のご挨拶のあと、全員で同志社カレッジソングを声高らかに歌い、同志社チアリーダーの第3回大懇親会での再会を約束しながら散会となった。

文責／早田重彦(昭41年・経)

DHC

通販化粧品・
健康食品売上

No.1

価値ある品質を追求し続けるDHCは、最大量^{※2}のグルコサミン^{※3}1920mgと軟骨強化成分CBPを世界で初めて配合^{※4}した「パワーグルコサミン」を開発。かつてない働きの間接系サブリを完成させました。これからもDHCは、日本最大級の健康食品企業として、健やかな毎日を応援いたします。

株式会社DHC

〒106-8571 東京都港区南麻布2-7-1 代表取締役会長兼CEO 吉田嘉明(昭和40年 文学部英文科卒)



史上最強の
グルコサミン

世界初^{※4} シービーピー
CBPを配合

※1 2014年1月1日 日本流通産業新聞
通販・通数・EC売上高ランキング
※2 DHC史上 ※3 グルコサミン塩酸塩
※4 関節対策を主とする処方

<http://www.dhc.co.jp>

晩秋の京都・今出川キャンパスに集う



11月9日(日)「同志社創立139周年
リユニオン・同志社大学ホームカミ
ングデー2014」が開催されたので、そ
の様子をレポートとした。



壇上から参加者に語りかける村田晃嗣学長

イブオルガンの前奏で開会式は、
厳かに始まった。

■開会式順序

前奏

讃美歌234A (一同)、
聖書朗読と祈禱 (石川キリスト教
文化センター所長)

永眠者記念黙禱 (一同)

合唱 (クローバー倶楽部)

式辞 (大谷総長)

歓迎のことば (村田学長・井上会
長・同窓会会長)

カレッジソング (一同)

頌栄541 (一同)

祝祷 (水谷法人理事長)

後奏

その後、同志社創立以来の恒例
となっている全員での集合写真撮
影が行われた。

■中身濃い多くのイベント

午前中には学長講演、昼食時に
は卒業生交流レセプションが大変
お値打ちな会費二千円で提供され、
多くの卒業生が参加し、旧交をあ
ためた。

雨上りの午後は、新島襄の熱き
「志」に因んだ、現役学生自らの「志」

コンテスト、グリークラブ演奏、応援
団演舞、神学部小原教授による記念講
演など多くの参加者で盛りあがった。
クラーク記念館、ハリス理化学館
など重要文化財を含むキャンパスツ
アー、裏千家による野点茶会、新島旧
邸見学ツアー、人力俤友の会による
キャンパス散策など終日あり、多く
の現役学生ボランティアが活躍した。

■閉会式

夕刻4時に明徳館前でカレッジソ
ングを歌いチアードで同志社人の熱い
一日が終わった。

文責／安井亮 (昭43年・工)



家族葬から社葬・お別れの会まで、
信頼の葬祭ブランド「公益社」におまかせください。



KOEKISHA

株式会社 公益社 ネットワーク 東京・横浜・大阪・兵庫・奈良
東証一部上場 葬儀ホールディングスグループ

まずはお電話を。公益社 ご葬儀相談センター(24時間・365日受付)

さよならのこころ

0120-347-556

http://www.koekisha.co.jp

通話料無料・携帯電話可

首都圏ネットワーク(自社会館・営業所)

◆東京本社 (港区南青山 1-1-1 新青山ビル西館 14F)

会館

- 公益社 用賀会館
- 公益社 高円寺会館
- 公益社 明大前会館
- 公益社 仙川会館
- 公益社 田園調布会館
- 公益社 雪谷会館
- 公益社 高輪会館
- 公益社会館 たまプラーザ

営業所

■青山ご葬儀相談室 ■日吉営業所 ■鶴見営業所

※上記を中心に 300ヶ所以上の葬儀場がご利用になります。

対応地域 首都圏 (東京・神奈川・千葉・埼玉)
近畿圏 (大阪・兵庫・奈良)

はりしませきの会
葬儀ホールディングス(株) 取締役相談役 播島 幹長 (昭和33年 経済学部卒業)

おがわよしりて
(株)公益社 法人営業推進部 部長 小川 佳秀 (昭和50年 経済学部卒業)



特別協力会員の集い

魚谷雅彦(株)資生堂社長の講演

平成26年11月18日18時より
同志社大学東京オフィスセミナー室において、恒例の「特別協力会員の集い」が開催されました。特別協力会員50名に加え、大学からは村田学長を始め関係者にご参加いただき、校友会本部ならびに東京支部関係者も含めて総勢68名が集いました。

◆村田晃嗣学長のご挨拶

「新島襄先生脱国150周年の今年、アーモスト大学を訪問し、マーティン学長と両校間のパートナーシップについて意見交換した。同校のジョンソンチャペルには新島襄先生の肖像画が最も重要な場所に永年変わらずつ掲げてあることに深い感銘を覚えた」とのことでした。

「同志社大学は2025年には創立150周年を迎えるが、記念すべき年に向けてのビジョンを現在策定している。校友の皆さんには引き続き母校への支援をお願いする」とのメッセージをいただきました。

◆特別講演「グローバル企業のハイブリッド経営」

今回は(株)資生堂の代表取締役執行役員社長の魚谷雅彦氏(昭和52年文)に特別講演をしていただきました。同氏は今年6月に(株)資生堂

の社長に就任されました。化粧品業界で老舗企業である同社がそのブランド力の再強化をはかるために73年ぶりに外部から招聘した経営者ということで話題になりました。同氏より現在同社が取り組まれている経営課題も織り交ぜながら、以下のような興味深いお話を聴くことができました。

一・同志社で学んだことが今の自分を作った。

英文科に在籍中に会った明石助教授(当時)に生きた英語を学ぶ必要性を教えられたことが、卒業後入社したライオン歯磨(株)で米コロンビア大学院に留学した経験に繋がっている。折しも「ジャパン・アズ・ナンバーワン」という世界的な評価のもとで、戦後の急速な経済成長の原動力となった日本式経営がもてはやされた時期であった。

二・日本企業のブランド力が低迷している。

80年代に圧倒的な技術力で世界市場を席巻した日本企業も90年代以降、「失われた20年」という低成長期には新興諸国の成長や欧米IT企業の躍進もあり、ブランド力の後塵を拝する状況になった。グローバル企業のブランドの金銭的価値を評価する「インターブランド・トップ50」に、日本企業は3社しか入っていない。

三・ハイブリッド経営の勧め

日本企業としてブランド力の再構築は喫緊の課題であるが、そのポイントはハイブリッドである。即ち、①高い技術力を生かしながら環境の変化に柔軟に対応すること、②雇用の多様性(外国人、女性)を推進すること、③世界的な視野で考えると同時に市場の地域性に適応すること、④社外機関との

共同研究による商品開発力の強化等に取り組むことが重要である。(以上)

*

講演終了後は東京オフィスの地下にある日本料理店に移動して懇親会を催し、山田史郎副学長による乾杯のご発声に始まり、特別協力会員同士の親睦を深めていただきました。文責／並河和之(昭44年・経)



懇親会の会場にて当日参加の女性に囲まれる村田晃嗣学長

校 友 訪 問

植野伸一 さん

株式会社アサツー ディ・ケイ
代表取締役社長

昭和51年・商学部卒



「伝える」のその先へ

電通、博報堂に次ぐ広告業界第3位のアサツー ディ・ケイの社長に就任して2年近く。植野さんは、昨年6月にコーポレートロゴを変え、オフィスも話題の虎ノ門ヒルズに移転と、颯爽としたリーダーぶりを見せてくれています。そして、従来の広告会社のビジネスモデルに留まらない、大きな変革を目指していると語ります。

消費者をどう動かすか、世界標準のオリジナリティをどう生かすか、植野さんの若々しい動きに注目です。

修学旅行で同志社に好印象を

出身は栃木県の鹿沼市です。世界遺産・日光の近くの町ですが、園芸好きの方には「鹿沼土」の、といったほうが早いかもしれませんね。

北関東と京都とは遠いイメージがありますが、私の高校時代の1970年に大阪万博があったり、当時はやりのフォークソングで京都がよく話題になっていたりで、けっこう関西や京都カルチャーにあこがれるものがあつた時期だったと思います。そこから何か新しい時代が始まりそう、といった感じでしょうか。

また、中学、高校の修学旅行が関西方面で、京都御所の北側にある同志社のキャンパスを実際に見て、とてもいい印象を持っていました。

1972年に商学部に入學したわけですが、まだ当時の学生運動の余波の中で試験がなかったりといった時代。自ずと(笑)勉強よりもアルバイトとサークル活動に力が入る、そんな学生生活でした。サークルは古美術研

究会。それほど歴史や仏像に興味があつたわけではないのですが、運命でしょうか、ここで文学部の文化史専攻の新入生だった妻と出会います。ですから、結婚した後もずっと同期生気分。会社員になってから家に遊び来た同僚や部下がびっくりするくらい、いまでも「友達感覚」の夫婦ですよ。

世界標準のオリジナリティで

三回生くらいからマーケティングが面白くなったり、次第に就職と自分のキャリアクター、やりたいことなどを総合的に考えるようになりまして。そうして調査関係の会社、サービスの業なら旅行代理店、あるいは広告業への就職をめざしたのですが、なんと旅行代理店2社と旭通信社(現アサツー ディ・ケイ)の3社の最終面接が同じ日になってしまったのです。

人生の分かれ道でした。第一次オイルショックのあとで、厳しい就職事情でしたが、幸い広告代理店の仕事に就くことができました。いい選択だったと思います。これから

の時代はこれだ、という実感がありません。

マーケティング、コンセプト、そういった言葉が生き始めた時代、1970年代後半から80年代は広告業界が大きくなっていた時代ですが、そういう時代に同伴できたことは幸せだったと思います。

入社以来、ほとんどのキャリアが国内の営業で、イベント系には関わっていません。その広告営業の仕事で印象に残っているのは、世界レベルの大物スポーツ選手をCMに使った飲料の案件ですね。

販売実績6位のをどう上げていくか。そのために予算をどう使うのか。仮に3年で90億という予算ならば1年30億使って、という考え方があります。でも、最初の一年に50億、60億を一気に投入して大物を使うという考え方もある。目的が6位を3位にするというのなら、目的を達成できればそれでいいではないか。——お金の効果的な使い方をそのクライアントの責任者の方の「判断」から学ばせていただきました。それは、

「判断」というより「決断」というべきかもしれません。

右肩上がりの時代、広告代理店の社員は朝から深夜までガンガン働いてどんどん仕事をとってくるという働き方でした。そして新聞、テレビ、雑誌、ラジオの4媒体との仕事メインでした。でも、今はSNSから口コミまで含め、できるだけ効率よく、というのが求められますし、消費者の方々にとって一番いい情報とは何か、が大前提です。

それと、自社の強みは何かということ。業界第3位というのは、厳しくもありやりがいもあるポジションです。たとえば、「ドラえもん」「クレヨンしんちゃん」「ワンピース」といったキャラクタービジネスは我が社の強みのひとつですが、そういった特長、独自性、世界標準のオリジナリティが今後の鍵となるでしょう。

稲盛和夫さんの言葉「動機善なりや、私心なかりしか」が座右の銘。高く、広い視点を持って進みたいと思います。

*

文責／谷村和典(昭和47年・文)

連続企画 片桐家同志社五代記(十二)

片桐会で岩村信二は、「良き牧羊者 片桐清治」という演題で記念講演をしている。

その内容は例の「ドーシテルノ」に詳しく記されているが、概略をお話したい。

まず集まった親族に向かって「皆さんは、片桐清治の子孫で有るということで一つであります」と話し始めた。ただし分類の仕方で二種類ある。

「一つは直系、血のつながった子孫、残りの半分はそれと結婚した配偶者の関連。その二つが片桐会をつくっているのです。私は直系・血縁では無く、配偶者の関係で片桐会に属している。ですが気持ちとしては片桐会に対し、強い、もっと運命的な感じを持つております」。

結婚の折りの運命的なものについては、前号で述べたのと同じくでは省略したい。

片桐清治の人となりについて話され、水沢出身の4秀才、後藤新平、斉藤実、山崎為徳そして、4人目に片桐清治が居

る。結婚を控えたあるとき「片桐先生は偉い、偉いとよく言うけれど何をした人なのか」と父清四郎に聞くと、「偉いといふことの中には二つの意味がある。一つは大臣だとか学者とか博士といった俗っぽい

意味で偉い人が沢山いる。ところが片桐清治が偉いのは、そういう意味で偉い先生ではないのだ。一つの教会の牧師としてずっとその教会を守った。これが我々の世界では一番偉い。一つの檀那寺の和尚さんのように、一つの教会の牧師をやり通した。そういう意味で片桐は非常に偉い牧師である」。その背景には、どうも新島襄先生の指図があったと思うといっていた。

皆さんも、同志社を創った新島襄という人は教育者であることは知っているでしょう。ところが新島先生は教育者だけじゃなく、大変な伝道者なのです。休みの度ごとに日本中を旅して伝道の集会、伝道の礼拝をやる。自分に

とって教育も面白いが教会を訪ねて伝道者を配置するのが一番面白いと自分で書いておられる。

当時、組合教会、日本キリスト教会、メソジスト教会といった教派が始まりました。明治19年に日本組合教会が組織されましたが、組合教会は新島先生が采配をふるって同志社の卒業生を日本の各地の重要な都市に派遣したのです。

山崎為徳が新島旧邸で病床についていた折り、片桐清治に世話をさせたが、その時の看病の姿を観て、新島先生の心の中に清治という人は牧師の中の牧師だと感じさせたようです。水沢の教会から東華学校の幹事として呼び寄せるのですが、清治は実直、情篤く多くの人に愛された本心に牧師らしい牧師、そういう意味で偉いですね。

岩村信二の話はもう少し続くのだが、残りは次号で述べたい。

文責／片桐 陽（昭42年・工）

連載コラム 今出川四季

文／西村四郎（昭23年・経）

私が同志社中学へ入学したのは、昭和13年4月のことです。18年3月に卒業し、4月大学予科に入学しましたが、1組から7組までありました。

授業は中学校と一変し教科書も無く、教授の講義を筆記させられ大変でしたが、大学に入学したことが実感でき一番嬉しかったです。

戦争もだんだん厳しくなり、軍隊にどんどん人が取られていくようになり、人手不足が国全体に生じ、勤労奉仕と云って農家の人手不足を補うために行くことが多くなりました。慣れない労働をさせられ大変でしたが、そんなことが一日二日ありました。

昭和19年になり、軍隊の学校に転出したり、応召されたりする人があり、戦時色がだんだんと強まって来ましたが、一応授業は予定通りありました。

二学期に入って戦時体制になり、勤労奉仕で大阪の工場

の寮に入り、毎日工員と同様に仕事をすることになりました。授業は先生が来られ、全員講義を一日したのみで終わり、勉強はなくなりました。

20年になり、もう学生は女子がほとんどで、男子は10人ぐらいいしか残っていませんでした。よって勤労奉仕もなくなり女子だけの学校のようになっていました。

小生も5月入隊が決まり、授業にも出ずに入隊しましたが8月に終戦になりました。9月より授業が始まりましたが、生徒も少なく翌年4月から生徒も増えやっと学校らしくなりました。

その後、23年3月卒業までは授業らしいものは受けませんでした。殆どの科目で試験の代わりにレポートを出せとのことで、他の生徒のレポートを見せてもらい少し手を加えて提出しましたが、それで卒業できました。授業を受けたものではなく、授業料を支払えば卒業できた、誠に頼りない卒業生です。

「東京新島研究会」新島先生の足跡を訪ねて仙台へ

新島襄が教育と伝道の拠点に選んだ仙台へ研修旅行に
10月22～23日、22人が参加した。

■東華学校遺址碑

日本たばこ産業仙台支店玄関前に建つ石碑。碑文は徳富蘇峰の撰で、仙台市民と同志社の協力による開校の経緯が刻まれている。明治19年に開校した東華学校は、キリスト教に対する世論の変化のために閉校、5年余の命であった。

■「同志社分校」のいま

実質的に同志社の分校として発足した東華学校は、明治25年閉校に。その精神はいま、宮城県仙台二華中学・高校に受け継がれている。県立の男女共学中・高一貫教育校である。しかし、学校による校史説明やパネル展、ビデオに新島襄が随所に登場し、同志社の分校？の印象が強い。

■仙台北教会は新島襄の遺産

仙台北教会の設立母体は、東華学校である。学校関係者が中心になって明治20年に教会設立。学校閉鎖後も、デフォ



仙台北教会前で記念撮影

レストと田中兎毛は仙台に残り伝道活動続けた。

礼拝堂壁面の額「我は生命也」は、第2代牧師片桐清治の揮毫。彼は新島襄の薫陶を受け、志を継いで、東北伝道に生涯を捧げた。「東華学校に蒔かれた種子は、仙台北教会に生き続ける」と同志社大文学部大学院卒小西望牧師は熱く語る。
文責／木村ケイ（昭29年・文）

年次会活動もますます活発に

同志社東京27会

同窓会開催回数で日本一

日本一ネットに記録登録されている「同志社東京27会」は、今年10月で435回を記録しました。

会長は（昭27・工）卒の長田寛さんで、現在昭27年卒13名、昭28年以降卒14名で毎月27日にがんこ銀座一丁目店で昼食を楽しんでいます。

これまで万年幹事で当会の発展に尽力された大平哲さん（昭27・文）、長年毎月参加された斉藤恭子さん（昭28・商）が昨年相次いで亡くなられ淋しくなりましたが、皆八十代ながら、百歳長寿を目指して頑張っています。

文責／藤田和哉（昭28年・経）



同志社東京41会

秋季ゴルフコンペ

11月14日（金）第17回秋季ゴルフコンペが「新千葉カントリー倶楽部つくもコース」で14名が参加し開催されました。天気は絶好の秋晴れ、紅葉を愛でながらの楽しい一日でした。

戦績については大波乱があり、前回の優勝者（村上毅）がブービー受賞者となり、前回のブービー（村上正幸）が優勝する、という珍事が起こりました。

反省会では、プレーに夢中のあまり紅葉を十分に楽しめなかったなどの声もありましたが、同じ大学出身という気のおかげで、同じ大学出身という気のおかげで、楽しい仲間と人生の秋、このような楽しい機会が持てることを幸せに思った次第です。

文責／村上正幸（昭41年・経）



同志社東京43会

第一回山登りの会

9月18日、絶好の天候に恵まれ、43年次の有志6名が集まり、高尾山ハイキングを行いました。道中、和気あいあいと談笑しながらの登山は大変楽しく、充実した時間を過ごす事が出来ました。下山後のビールがいつもに増して美味しく、このために登山をしたような感もありました。

全員の総意として、これを機会に今後もこの会を続けて行く事となり、次回は来春大山詣を楽しむこととなりました。年次を問わず興味のある方は、幹事の小林繁蔵まで連絡をお願いします。
sh005298@ac.auone-net.jp
文責／吉川進（昭43年・工）



同志社 スポーツ

関東同志社スポーツ ユニオン総会開催!

本年度第11回目を迎えた関東同志社スポーツユニオン総会が、千代田区学士会館に於いて10月5日開催されました。

京都から尾嶋副学長にご来場いただき同志社大学の現況の講演を行っていただき、続いてNHKサッカー解説でおなじみの元ジャパンのGK、小島伸幸氏（昭和63年・商学部卒）とフリーアナウンサーの大森有里子さんが登壇してパネルディスカッションを行いました。

時期がワールドカップやアジア大会直後だったこともあり、最初は日本のサッ



元日本代表ゴールキーパー小島伸幸氏との記念撮影

カー界の戦術や世界との違いなどの話題から入りましたが、大学サッカー界とJリーグのジョイント体制などで培われる全体レベルの底上げなど他競技種目に携わる人やスポーツ愛好家にも非常に参考になる話ばかりでした。

小島氏は高校まで群馬県（新島学園高校ご出身）で生活されていたこともあり、京都にやってきた当初、たぬきうどんが通じないことに衝撃を受けたそうです。奥様は関西ご出身のため（同志社大学サッカー部の試合を観戦に来ていたところに、声をかけたのがきっかけ）ご家庭では食事の点で少し違和感があったとか。大森さん会話の妙で思わぬエピソードまでたくさん語っていただきました。

パネルディスカッションの後は懇親会となりましたが、冒頭に、同志社東京校友会の児玉会長から全国大会に上京してくる各クラブ学生への支援金として金一封の提供があり、関東同志社スポーツユニオン村口代表が代理で受領しました。

ご支援いただくことは各クラブ学生にとって大変励みになりありがたく、益々

競技にも打ち込めることと存じます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

最後は同志社大学応援團OB・OG有志によるリードで、カレッジソング、同志社チアール、エールを全員で叫び散会いたしました。

2014年

同志社スポーツ総括

各大学とも球技関係が強化され、強豪がひしめき順位を上げ難い傾向にある中で、バスケットボール部関西2位、卓球部女子の全国3位、テニス部、ソフトテニス部の健闘が光りました。

観客が応援し易い、野球関係、ラグビー部、サッカー部、アメリカンフットボール部等の多人数で行う団体球技にはもう一歩奮起をしてもらい、関東にも進出してもらう、関東の校友の皆さんにも声援を送っていただけのようにすると同志社全体が盛り上がりそうですね！

一方で、新興競技種目については上位進出が目立ち、これから注目していただきたいと思えます。ラクロス部、トライアスロン部、ボードセILING部の上位進出が適っています。どのような競技種目なのかなど、東

京ジャーナルで今後レポートをさせていただきますのでご期待ください。

武道系や格闘系の健闘、活躍も本年は例年以上に目立っています。特にこのところ目覚ましいのが女子選手達の大活躍。空手道部、日本拳法部は全国の覇を争う逸材が存在します。また、レスリング部の復活（24年ぶり西日本優勝）などうれしい報告が届いています。レスリング部の復活についても今後の東京ジャーナルで紹介させていただきます。

2015年も同志社スポーツのご声援よろしくお願い致します。

文責／八木克明（昭62年・文）



早稲田を追いつめたが一步届かず。突進する”田淵組”

東京オフィスの産官学連携オフィスが 始動します！



スペシャルインタビュー／副学長：渡辺好章



渡辺好章副学長

東京オフィスでは「産官学連携オフィス」が7月1日から活動を始めている。

同志社大学の東京における産官学連携は2004年から田町のキャンパスイノベーションセンター東京を拠点に活動していたが2012年に閉室。7月から東京オフィスで活動が再開された。担当副学長の渡辺教授は狙いをこう語る。

「企業、会社との連携を強化するには、東京に拠点を持ち人を置かなければ成果はあまり望めません。当たり前のことです。きめ細かい日常の活動の積み重ねが必要で、それらはやはり京都からだけでは無理。私見ですが、同志社大学は現状に安住していると感じるが多々あるので、言

葉は悪いが「引きこもり体質」を変えたい。これまでも問題意識がなかったわけではない

けれど、具体的な一歩の踏み出しができていなかった。産学連携オフィスでのイベントは、教員が外から刺激を受ける機会でもあり、研究ブラッシュアップのきっかけとなることも期待しています」

渡辺副学長は生命医科学部の教授でもあり、東京オフィスからTV会議システムでの講義にもチャレンジされた。

「私の場合は、スケジュールの関係でやむなくの対応だったのですが、ICTを活用し東京在住の著名講師と京都をつなげば在校生にもメリットが発生する。こういった観点でも東京オフィスは活用したいですね」

3月には産官学連携東京オフィス初のイベント実施が決まっている。

「メーカーと同志社大学の研究者がフリーディスカッションを行うもので、ビジネス研究科特別客員教授の森下先生に座長をお願いします。単に

企業とのマッチングを狙うだけでなく本学の活動すべての

底流にある『同志社精神』を新島のストーリーや『良心教育』の観点からお伝えする時間を設けます。まず『同志社』を知っていただくことが重要です。人材育成の観点でも共感・支持をいただけるようプログラムを考えています。座長の森下俊三先生（元NITT西日本社長）の豊富な知見、人脈をこの企画にご提供いただく予定です」

◆同志社大学新ビジネスフォーラム◆ キックオフ・シンポジウム ご案内

日時：2015年3月10日（火）18:30～
会場：東京オフィス・セミナー室
プログラム（予定）
挨拶・趣旨説明：渡辺 好章副学長・研究開発推進機構長
基調講演：森下 俊三 ビジネス研究科特別客員教授
講演（シーズ発表）：三木 光範理工学部教授「知的照明によるオフィス改革（仮）」、飛龍志津子生命医科学部准教授「生物に学ぶセンシング技術—コウモリの超音波利用の実態—」

●お問合せ：同志社大学東京産官学連携オフィス

電話 03-5579-9587

文責／安永昌代（昭56年・経）

DAIKIN

世界中でつくります。なかった空気。できなかった空気。

国が違えば、暮らしが違えば、欲しい空気も違うはず。
ダイキンは最新の空調技術で、その全てに応えたい。



ダイキン工業株式会社

新島襄横浜港帰国140周年記念事業

校友会神奈川県支部・同窓会横浜支部では、創立者新島襄が米国留学から横浜港に帰国して11月26日に140周年となるのを記念して、この日校友ら約90人が出席して記念行事を実施した。



植樹式。スコップで土入れをする大谷総長。

裏の上陸地点である象の鼻埠頭が見える横浜・みなとみらい21地区の赤レンガパーク内でオオシマザクラの植樹式を実施し、引き続き会場をナビオス横浜に移して式典・講演会・懇親会を開催して襄の志と精神を学んだ。

植樹式は風雨に見舞われ、非常に寒い中での開催となった。大谷総長の挨拶の中で「この大雨、大風の中での植樹式は絶対忘れないし又、この雨だと絶対に根はつく」と喜んでおります。この木が大きくなり花を咲かせるとともに同志社が発展、進化することを願っております」と話された。

続いて来賓・主催者による記念銘板除幕式、記念樹への土入れが行われ植樹式は終了した。前方に新島襄が上陸した象の鼻埠頭をのぞみ、後ろに今出川校舎を連想させる赤レンガ倉庫を配置した絶好の場所に「八重の桜」にちなんだオオシマザクラを植樹した。

春には花を咲かせ、同志社校友だけでなく市民の憩いの場になることが主催者一同の願いでもある。

続く記念式典での講演会では元同志社大学神学部教授の本井康博氏による「新島襄の再出発 横浜から大磯へ」と題しての記念講演があった。

新島「襄」の生地（命名の

由来）は横浜であるとの話から始まり、襄の名前の変遷から、大磯で永眠するまでのお話があった。また、前支部長の大坂顧問からは記念事業の努力の経緯、そして襄が米国で得た貴重なもの「忍耐力と努力、勇気と強い信念」を特に若い人たちは学んでほしい、これが今回の140周年の意味である、との話があった。

文責／西田外志男(昭50年・工院)



140周年記念事業に参加された皆さん

新人歓迎コンパ

新人を歓迎しつつ
交流を楽しみました！

洛紫会（50歳までの校友）、マーケティング研究会では、卒業後首都圏勤務となった新人の歓迎会と合同で交流会を12月5日に実施した。

これまでの活動は、ゲスト講師に講演をお願いし、その後懇親会を行っていたが、今回は新人歓迎と互いの交流がはかれるよう、自己紹介タイムと懇親会とした。

既参加者へのメールと校友会HP、FBで告知を行ったが、知り合いを誘ってくれた方々のおかげで初めての方が多くこられ、嬉しい会となった。交流会には78名、懇親会には81名が参加。

平成卒の方が大半をしめ、新人は8名のみではあったが、大盛会であった。

東京校友会はまだあまり知られていないばかりか、ネガティブな印象をもっている人たちがいることも聞かえてきた。とはいえ、この日の数時間は、ビジネスパーソンにとつてちょっと刺激になり、仲間意識が嬉



交流会に集まった皆さん

しい、そんな時間であったかと思う。

洛紫会、マーケティング研究会は活動を継続するが、合同では5月24日春の集いで100名以上の「大名刺交換会」を行いたいと計画中である。

初参加の際は雰囲気や参加者の年齢層もわからないこともあるので、知人から誘われると参加しやすい、とのこと。フェイスブックも活用し口コミでどんどん広がってほしいと願っている。文責／安永昌代(昭56年・経)

お知らせ

「2015 同志社東京春の集い」同志社オンラインマイマインド

グローバル社会へ躍進する！

新年あけましておめでとう
ございます。

さて、『春の集い』は、本年で17回目を迎えます。すでにご報告させていただいておりますように、昭和46年卒・56卒及び平成3年卒のグループが委員会を構成して推進させていただきます。今年のテーマは『同志社オンラインマイマインド』にいたしました。皆さんの青春と人格形成の場であり、何よりも多くの学友と巡りあえた「同志社」に、感謝の気持ちを持って帰りたいと考えております。



2014年春の集いの開会式

第二部の講演では、村田学長から「同志社のいま」についてご報告いただき、続いて文学界で活躍するお二人のゲストをお招きして、活動の礎

になった「同志社」で、いかに過ごし、いかに人格形成されたかなどを、それぞれ熱く語っていただきます。

毎年ご参加の方はもちろん、新しく参加される方も一緒にあって、それぞれの人生の原点になった時代を語りませんか。そして今年もまた、集い来る友と、「同志社」に思いを馳せる日にしませんか。

そこで、新しい年の初めに毎年ご参加の皆さんはもとより、初めてご参加いただく皆さんにお願いがあります。

この機会にぜひ、年次会・サークル活動の友人・ゼミの友人などを通じて、先輩・後輩にお声掛けしていただき、さらに強い絆で「同志社」に集い「同志社」を語ろうでは

ありませんか。ご協力よろしく
お願いします。
皆様のご来場を心よりお待ちしております。



2014年の懇談会。旧友達との再会に会話がはずみます

【プログラム】

◆第一部

カレッジソング

(クローバークラブ有志)

開会祈禱

讃美歌斉唱

開会宣言

会長あいさつ

来賓あいさつ

同志社大学歌

(クローバークラブ有志)

◆第二部 講演会

【特別講演】

同志社大学 村田晃嗣学長

「トークショー」

有栖川有栖氏と中村うさぎ氏

◆第三部

同志社大学アンサンブル

室内楽の夕べ

*実施内容は、一部変更する場合があります。予めご承知おきください。詳細は、別途『春の集い』案内状、又は東京校友会ホームページ
<http://Doshisha-tokyo-alumni.jp>
でご覧いただけます。

○平成25年・26年・27年ご卒業の皆様へ



鏡割り (2014年開催時)

校友会活動告知



■新島襄生誕の地・前祭・記念講演会・午餐会ご案内

恒例の新島先生生誕の地・前祭が、学校法人同志社の主催にて、左記の通り執り行われます。それに引き続き、東京校友会並びに同窓会東京支部との共催による「記念講演会」と「午餐会」を企画しましたのでご案内します。

【日時】

2015年2月12日(木)

【碑前祭】

午前10時45分～11時15分

【記念講演会】

午前11時30分～12時45分

講師・本井康博氏

(元同志社大学 神学部教授)

「江戸っ子・新島襄の夢」

神田に錦を飾る」

【午餐会】午後1時～2時15分

【場所】

【碑前祭】新島襄生誕碑前

東京・神田一ツ橋学士会館

【記念講演会】学士会館2階

201号室

【参加費】無料

【午餐会】学士会館2階

203号室

【午餐会会費】

3200円(当日徴収)

参加希望される方は、2月5日までに事務局までご連絡下さい。

電話03・5579・9728

FAX03・5579・9729

なお、今回の「碑前祭」と「記念講演会」につきまして

は千代田区観光協会、学士会館、神田錦町三丁目町会のご

後援を得ました。よって各会

員、町会の方々にも参加のご案内をします。校友の皆様

の多数のご参加をお待ちしております。

■定時総会・評議員会案内

同志社東京校友会の定時総会・評議員会の日程が決まりました。

平成26年度定時総会・評

議員会

【日時】

2015年2月26日(木)18時～

【場所】

同志社大学 東京オフィス

セミナールーム

【議題】

(報告事項)

①2014年度活動報告

②会計報告

③会計監査報告

④その他

(審議事項)

①第1号議案 2015年活動計画案

②第2号議案 収支予算案

③その他

※出席希望される方は、準備

の都合上2月19日(木)までに事

務局までご連絡下さい。

電話03・5579・9728

FAX03・5579・9729

■「同志社東京38会13回総会」開催のお知らせ

【日時】

2015年3月8日(日)

午後12時～14時

【場所】

青山ダイヤモンドホール

今回は、38会員奥山さん

のお嬢さんと、現在、神奈川

フィルハーモニー管弦楽団バ

イオリニストとして活躍中

の佳代子さんと、桐朋学園大

学同窓でソロやオーケストラ

など活躍の今野悠子さんに

よる二重奏です。お楽しみ、

ご期待ください。

多数の会員のご参加をお待

ちしております。

*詳細ご案内は後日

各会員へ・総務窪川

文責/片桐 陽(昭42年・工)

編集後記



2015年が始まりました。昨年のトピックスは、何と言っても同志社大学東京オフィスの移転です。

東京オフィスについては、東京ジャーナルでも何度かお知らせしましたが、これからはこのオフィスを中心に同志社大学の東京でのプレゼンスを高める活動を我々校友も積極的に進めて行きたいと思っています。

さて、98号も内容は盛り沢山で、16P建てにしました。

昨年は校友会の大懇親会も二回開催され、全国規模の校友会活動が活性化しています。が、今年も更なる発展に向け東京校友会でも積極的に活動をしていきたいと思っています。

今後とも校友の皆様のご協力を賜りますよう、紙面を借りてお願いする次第です。

どうぞ宜しくお願いします。文責/片桐 陽(昭42年・工)

すみれ亭

昭和38年会俳句会

弘川寺の西行のしのぶ寒桜

諏訪河童

久々に弘川寺を訪れた。かつて北面の武士であった若き西行佐藤義清は、ある日思ふところあって幼い娘を縁先に蹴飛ばして家を捨てる。以来、歌に命を託して全国漂泊の旅に出た。

「ねがはくは 花の下にて 春死なむ

そのきさらぎの 望月のころ」(西行法師)

河童氏も今富田林の名刹で大歌人の遺徳を偲んでいるのだ。

(評・あかぎ倦鳥)

DOSHISHA TOKYO JOURNAL
2015.JAN NO.98

同志社東京校友会

電話 03-5579-9728

FAX 03-5579-9729

発行人 児玉正之

編集人 片桐 陽

デザイン デザインスタジオ クリエンス

<http://www.doshisha-tokyo.alumni.jp>

HP会員ページ
ログイン情報

ID =doshisha
PASS=1875